

## 完了後の評価個表

整理番号	21
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	山口県
地域（地区）名	萩 <sup>はぎ</sup>	事業実施主体	市町、森林組合等
関係市町村	萩市、阿武町 <sup>あぶちよう</sup>	管理主体	市町、森林組合等
事業実施期間	H23年度～H29年度（7年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、山口県の北部に位置し、北側は日本海に面し、東側は島根県に接している。</p> <p>本地区の森林面積 66 千 ha（森林率 81%）のうち、計画の対象となる民有林面積は 65 千 ha（森林全体の 98%）である。このうち、スギ・ヒノキを主体とする人工林の面積は 26 千 ha（人工林率 41%）である。</p> <p>人工林の齢級構成は 13 齢級の 22 千 ha をピークに 10 齢級以上が 65% を占めるなど、本格的な利用期を迎えており、増大する利用可能な資源の活用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>しかしながら、林業の採算性の長期低迷や林業従業者の減少等を要因として、間伐等の手入れが十分でない森林や主伐後の再造林が行われない森林の増加が懸念され、水源涵養<sup>かん</sup>や山地保全、地球温暖化防止等といった森林の有する公益的機能の発揮に支障をきたすおそれがある。</p> <p>本事業は、森林資源を有効に利用しながら森林の有する公益的機能を高度に発揮させることを目的に、萩地域森林環境保全整備事業計画に基づき、森林整備及び路網整備を実施したものである。</p> <p>主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備 2,834ha             <ul style="list-style-type: none"> <li>人工造林、下刈り、除伐、保育間伐、間伐等</li> </ul> </li> <li>・ 路網整備 1,780m             <ul style="list-style-type: none"> <li>林道開設</li> </ul> </li> <li>・ 総事業費 1,212,009 千円（税抜き 1,139,643 千円）</li> </ul>
-----------------	---

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和5年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>事業着手以降、当初の予定よりも施業の集約化が進んだことにより、保育間伐及び間伐の施業量が増加したことを踏まえ費用便益分析を実施した。</p> <p>総便益（B） 26,695,430 千円          総費用（C） 3,362,105 千円          分析結果（B／C） 7.94</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備により、水源涵養、山地保全や地球温暖化防止等といった森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、列状間伐の実施や高性能林業機械の使用等により、効率的な施業が行われた。</li> <li>・ 路網整備により、施業地へのアクセス時間の短縮や木材の搬出コストの低減が図られた。</li> </ul>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業で整備された森林は、森林経営計画等により継続して適正に維持管理されており、良好な状況にある。</li> <li>・ 本事業により開設された林道は、管理者である萩市により適切に維持管理がされている。</li> </ul>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備の実施により健全な森林が育成され、水源涵養や山地保全、地球温暖化防止等といった森林の有する公益的機能が発揮されている。</li> <li>・ 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</li> </ul>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度国勢調査によると、山口県の林業従事者数の平均年齢は53歳と全国の中でも高齢化が進んでいる。</li> <li>・ バイオマス事業などにより木材需要が拡大しており木材の搬出量は、平成23年度36,646m<sup>3</sup>/年から令和4年度56,864m<sup>3</sup>/年と増加している。</li> </ul>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>整備の行き届いていない人工林の増加により、水源涵養や山地保全、地球温暖化防止等といった森林の有する公益的機能の発揮に支障を及ぼすおそれがあり、主伐後の再造林や間伐など、森林整備の適切な実施を強力に推進する必要がある。</p> <p>特に、利用期に達したスギ・ヒノキの人工林については、森林資源の循環利用の観点から主伐・再造林を積極的に推進することにより、適正な森林整備はもとより森林所有者に利益を還元できる仕組みを構築していくことが重要である。</p> <p>（山口県）</p> <p>水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮のために、引き続き森林整備事業等により森林整備及び路網整備を実施していくことが求められている。</p> <p>主伐・再造林を進めるため、再造林及び初期保育の低コスト化や伐採者と造林者が連携した再造林の普及等に取り組んでいく。</p>

評価結果	<p>必要性： 本地区は、間伐等の手入れが十分でない森林や主伐後の再造林が行われな い森林の増加が懸念されており、森林の有する公益的機能の発揮に支障をき たすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 森林整備においては、列状間伐や高性能林業機械の使用等による低コスト で効率的な作業が定着しつつある。路網整備においては、森林整備事業箇所 へのアクセス向上が図られており、費用便益分析の結果からも、事業の効率 性が認められる。</p> <p>有効性： 森林整備及び路網整備の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進 が図られていることから、事業の有効性が認められる。</p>
------	--

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：山口県

地域(地区)名：萩

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	9,510,148	
	流域貯水便益	1,373,034	
	水質浄化便益	5,131,834	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,515,351	
環境保全便益	炭素固定便益	2,912,692	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	5,551	
	木材利用増進便益	24,862	
	木材生産確保・増進便益	2,093,264	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	128,694	
総 便 益 (B)		26,695,430	
総 費 用 (C)		3,362,105	
費用便益比	$B \div C = \frac{26,695,430}{3,362,105} = 7.94$		

# 森林環境保全整備事業 萩流域（山口県）概要図

